

1

出典：岡本裕一郎『12歳からの現代思想』

問一

傍線（1）の理由を聞いています。まず「この対立」という表現に注目して、1行目から「人間」と「自然」の対立であるという内容をつかみます。この二つの関係に対しては、10行目「人間抜きの「自然」は抽象的な虚構にすぎません。人間が眼前に見いだす「自然」は、それに先立つ世代によって手の加えられてきた「自然」であって」とあるように、筆者は、「自然」というものは「人間」の手が加わっているものだ、と考えていることがわかります。以上をまとめます。

問二

空らんを補充して傍線（2）を説明する問題です。17行目「いままで、環境保護のためには、人間が自然にできるだけ介入しないことが、求められてきました。人間が自然から手を引くことが、エコロジーだというわけです」とあります。これは「いままで」とあるように、筆者が批判する従来の見方ですから、これを裏返すと、筆者の主張に沿う説明文となります。

問三

空らんを含む一文全体を読むと自然をどうすべきかという中心的なテーマが問われていることがわかります。本文の最後の一文「むしろ、いま必要なのは具体的な問題のなかで、広い視野に立って長期的な観点から自然を管理することではないでしょうか」から「管理」を抜き出します。

問四

傍線（4）の内容を端的に示している個所を本文から抜き出す問題です。71行目「いままで、「人間中心主義」を批判するとき」の後に続く「「人間」が「自然」を「搾取」する」を抜き出します。

問五

傍線（5）に関して擁護可能な「人間中心主義」とはどのような立場かを説明する問題です。筆者の考えは、51行目から70行目までに述べられていますので、51行目「人間の利益」について、65行目「長期的な視野に立って、広い観点から考慮する」ことが必要であることに加えて、70行目「自然を精神的に評価する」という内容をまとめます。

問六

傍線（6）にある「自然を理想化する」ことの意味を問う問題です。筆者の批判する自然観は8行目にあるように自然を「人為的ではない」とする見方ですから、ア「人為的ではない自然に憧れること」が正解です。

問七

平易な漢字の問題です。

問八

本文の内容に合うものを答える問題です。筆者の考えによれば、自然は人間の手が加わった文化的形成物であ

り、人間が管理すべきものですから、そういった内容を述べたイが正解です。アの2行目「自然はもともと人間によって創造されたものである」とありますが、本文では「手が加わっている」といっており「創造」は言い過ぎです。ウは2行目「あらゆる「文化」は自然から形成されてきた」とありますが、本文で述べているのは「自然」は「文化的形成物」であるということなので、これは誤り。エは2行目「「自然が人間を保護することにも思いをめぐらすべきである」が本文に述べられていないことです。

2

出典：野中柊『小春日和』

問一

傍線（1）の理由を問う問題です。10行目「彼女はさっきまでの不機嫌が嘘のように楽しげで、吉田俊樹くんの隣りでスキップをしていた」から吉田俊樹くんのおかげで不機嫌がなおったことを、また30行目「やはり、彼はひとりぼっちで食事をするのが多いのだろうか。何だか可哀想に思えてきて」から吉田くんの孤独に対する同情心を読み取ります。正解はアです。イ「吉田くんは自分たちのファンであり」とありますが、45行目に「実は私たちのダンスの大ファンなのだ、と語り始めた」とありますから、小春の早食いの時点では、自分たちのファンであることはわかっていないので、不正解です。ウは「かき氷をすすめてくれたのに断ってしまったことを悔やみ」とありますが、これは、言い過ぎです。エは2行目「今までしたことがなかった早食い」とありますが、34行目に「いつにも増して」とあり、早食いを今までにしたことがあったことになりません。正解はイです。

問二

傍線（2）の理由を問う問題です。39行目に「ふたごでも、ひとりにはできて、もうひとりにはできんことがあるの？」とあり、吉田くんは小春と同様に「私」も早食いができると考えていることがわかります。この「期待」とは、「私」にも早食いをやってみせてほしいということになります。吉田くんが「私」もできると考えた背景には、42行目「ダンスやったら、ふたりともむちゃくちゃうまいやないか」とあるように、ふたりとも同じようにダンスがうまいことを知っていたということがあります。以上から、吉田くんはふたりともダンスがうまいことを知っていたこと、小春と同様に「私」も早食いができると考えたこと、早食いを実際にやって見せてほしいと思ったということ、という三点をまとめます。

問三

傍線（3）に表れた吉田くんの気持を問う問題です。84行目「あんたら、芸能人になれば、自分の力で稼げるんやで。そうなれば、親が離婚しようが、どうしようが、コワイもんあらへんやないか」から、親の都合に左右されず、自分たちの目標の実現をめざすべきだ、という気持ちが読み取れますので、正解はイです。本文からは姉妹の夢に対する吉田くんの否定的な気持ちは読み取れませんので、アの「二人の才能からすれば実現は困難だとは思いつつも」というのは誤りです。ウでは「家庭の不幸」と「入院」を「同様の経験」と述べている箇所が本文とずれています。エでは「両親が離婚することを前提に」というところが言い過ぎです。したがって、イが正解です。

問四

傍線（4）の理由を説明する問題です。一つは吉田くんの考え方で、傍線の直後に「達観しているというか、ひねているというか、ものの考え方が他の子どもたちとは違う」とあるように、「他の子どもたちと違って大

人びている」という点です。もう一つは、54 行目「ほら、僕、事故にあつて死にかかつて、一年近く病院にいたやろ？ で、助かったはええけど、退院したら一年下の子らと同じ学年にならなあかんようになって」とあるように、吉田くんは実際にも「周りの子どもたちよりも一才年長である」という点です。

問五

平易な慣用句の問題です。

問六

第 1 段落の中で「吉田俊樹くんは犬の気持ちをつかむコツを心得ているみたいだった」が入る箇所を探す問題です。「犬の気持ちをつかむ」という部分を受けているのが、8 行目「いや、犬だけではなく、人間の気持ちをも、だろうか。」ですから、この直前に入ります。

問七

□に囲まれた段落の中で、会話文にかぎかっこが用いられていないことによって生じる効果の説明を問う問題です。この段落は、過去を回想している場面ですので、エが正解です。アは「幻想である」の部分が、イは「誰の会話なのかわからないほど」という部分が、ウは「父が一方向的に話しつづけた」という部分が誤りです。

問八

内容合致の問題です。アは「小春と日和は、テレビのコマーシャルに出たことがきっかけで芸能界に入り」という部分が、イは「ほっとする」という部分が、エは「胸のつかえがとれる思いがした」という部分が誤りです。本文全体をまとめたウが正解です。